

白老中学校における 職場体験学習の実施について

胆振東部森林管理署

●はじめに●

胆振東部森林管理署は、北海道の南西部に位置し、胆振東部森林計画区内の1市2町(苫小牧市、白老町、むかわ町)に広がる約63千ヘクタールの国有林を管理経営しています。



樽前山 溶岩ドーム

管理する国有林は、火山地域(樽前山)における防災林としての働きが期待されているほか、ポロト自然休養林、インクラの滝風景林、倶多楽湖風景林、ホロホロ山風景林などレクリエーションの森としても多くの方々に利用していただいています。

●白老町立白老中学校の職場体験学習の取組●

胆振東部森林管理署では、白老町の町立中学校の2年生を対象に、毎年2日間にわたり森林管理署の仕事を体験してもらう「職場体験学習」を行っています。

「職場体験学習」は、中学生が実際の職場で仕事を体験する事を通じて、やりがいや苦労を実感し、生徒自身の進路に対する意識の向上や職業観を高めることを目的としています。

学習を行う際には、管内で仕事をしている請負事業体にも協力していただきながら、現場の見学や体験に重点をおいて実施しています。

森林の公益的機能を高めるため、木の伐採作業を行っている現場では、高性能林業機械による伐倒から丸太にするまでの見学や、丸太の太さ・長さを計測する検知作業を体験しました。

実際に森林で働く方々から、林業の難しさだけではなく、やりがいや林業をやっていて良かったことなどもたくさん伺うことができ、昨年度参加した生徒からは「森林管理は”ただ見て管理するだけ”だと思っていた。2日間を通して、森林の管理というのは、見守るという単純なものではなく、たくさんの人々が関わることで今の山がある事を知ることができた。」と素敵な感想をいただいています。



現場見学の様子

●今後の取組●

林業の成長産業化と森林の適切な管理経営を実現していくためには、林業従事者の確保・育成が重要ですが、林業従事者数は長期にわたって減少が続いています。将来の進路選択に向けて学生の皆さんに林業や森林管理署の仕事を理解してもらうことは重要です。

当署としても、より多くの方に興味を持ってもらえるようなプログラム作りや関係機関との連携を行っていく考えです。